

みどりの地球をみどりのままで、子どもたちへ

vol.298 3月号  
2026年3月16日発行

# グリーンたいむ



発行：グリーンコープ生活協同組合くまもと  
<https://greencoop-kumamoto.jp/>



グリーンコープ生協  
くまもと 理事長  
小林 香織

組合員の皆様、いかが  
お過ごしでしょうか？

今年度も皆様のグリー  
ンコープ運動へのご理解  
とご協力が励みとなり、

せっけん運動、遺伝子操作作物反対運動、4R  
運動などさまざまな取り組みを、前を向いて力  
強く進めることができました。

「2027カーボンニュートラル」の取り組  
みでは、約70%の方々に同意をいただきました。  
また、さまざまなご意見をいただき今後の活動  
に生かしていきたいと思っております。心より  
感謝申し上げます。現在、ドライアイスの削減  
やEVTトラックの導入などを進めています。活  
動組合員も、カーボンニュートラルの学習会に  
て学びを深めております。学習会で、「このま  
までは、みかんの栽培適正地がアボカド栽培適  
正地になってしまう」という話を聞きました。  
熊本はみかんの産地ですので、更にこの取り組  
みの大切さを身近に感じました。

びん牛乳につきましては、びんの変更とびん  
牛乳工場の稼働にあたり、牛乳びんにひびが入  
るといふ事態がおこり、組合員の皆様には大変  
ご心配をおかけしました。その後、考えられる  
原因を一つひとつ解明しながら、安全にお届け  
できるようになりました。

乳和食を開発された小山浩子さんの学習会を  
受けましたが、グリーンコープのびん牛乳を、

## 2025年度を振り返って

グリーンコープ生協くまもと  
理事長 小林 香織

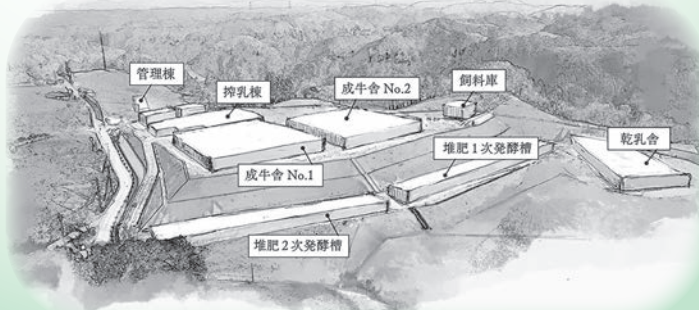
クオリティーの高さとおいしさから「奇跡の牛  
乳」と言ってくれました。

2026年7月には、いよいよ「耶馬溪ファ  
ーム」が開場します。  
少しずつ頭数を増や  
していきます。20  
27年度中にはTM  
Rセンターで作られ  
たnoniGMOの  
飼料を食べた乳牛か  
ら搾乳した生乳の牛  
乳の供給が始まりま  
す。

しかし、生乳量を  
満たすことができま  
せんので限定数にな  
ります。全て切り替  
わるまで、しばらく  
お時間をいただきま  
すが、その日を楽し  
みにしていただけたらと思います。

組合員の皆様の一つお願いがあります。ぜひ、  
ご案内します取り組みにご参加ください。活動  
組合員は、地域の組合員の皆様と会えることを  
楽しみにしております。もちろん、私も一人で  
も多くの組合員の皆様にお会いしたいと思っ  
ております。皆様にお会いできる日を楽しみにし  
ております。

「耶馬溪ファーム」イメージ図



も  
く  
じ

1：2025年度を振り返って / 2：東・西地域本部のページ / 3：組合員活動報  
告のページ / 4～5：2025年度 災害支援活動のまとめ / 6：2025年度 遺伝  
子組み換え作物反対署名の取り組み報告 / 7：わたしとグリーンコープ、こんに  
ちは！ワーカーズです、2027カーボンニュートラル / 8：2025年度 グリーン  
コープでんき関連、電話コーナー、リユース・リサイクル状況、編集者だより



グリーンコープは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



© 2010 くまモン

グリーンコープ生協くまもと主催

1月27日(火) 於：市民会館シアーズホーム夢ホール (大会議室)

# 「母と子の絆ーカネミ油症の真実ー」

上映会感想

「またこの構図と対面するのか」

映画の進行に伴って、胸中を去来したのは、既視感と呼ぶにはあまりに生々しいものだった。

1968年10月4日に、市民がカネミ倉庫製のライスオイルを保健所に持ち込み、「食中毒ではないか」と訴えた時、行政が速やかに「食品衛生法」を適用し、カネミ倉庫にライスオイルの出荷停止、商品回収を命じていたら、関連被害者数14,000人超という悲惨な結果には至らなかったはずだ。言うまでもなく、熊本県ではこの事件の12年前に水俣病の発生が公式に確認されている。被害を受けた方々は「なぜ」の本流に苦しめられたことだろう。

「なぜ、過ちを繰り返すのか」「なぜ、この苦しみを分かってくれないのか」「なぜ、食卓に毒を載せることになってしまったのか」――

2005年に設立された「カネミ油症五島市の会」の代表を務めた故・矢口哲雄氏の娘・敏子さんの、映画の終盤での発言に胸を打たれた。暗澹とした事実報道が説明された後、「私は以前、草や花を『綺麗だ』と思えなかった。でも、ある時を境に『綺麗だ』とを感じるようになった」

人が視覚で色を認識するためには、一定程度の光量が必要だ。敏子さんの心が、世界の色彩を捉え始めたのは、苦しみの中でもそこに希望の光を見出した時からではないだろうか。私自身、学生時代にいじめられていた体験があり、その間、世界を美しいと思えなかった。私のその苦しきは、この事件に関わる方々と比べるべくもない。だが、差別を受け、常時疎外感を感じ続けた経験を持つからこそ、分断される苦しみを前にして他人事だと無関心ではいられない。その因果の結果、この場を借りてこの文章を記す現在があるのだ。優しい人たちに囲まれて、楽しい家庭にも恵まれている今は、世界をこの上なく美しいと感じられている。それは当たり前でなく、有り難いことなのだ。

同年代の女性である敏子さんが父親の意志を継ぎ、会の事務局長を引き受ける毅然とした姿に、類似した他の案件に憤りを感じていた私は「まだ諦めるのは早いよ」と優しいエールをもらった気がした。

そんな彼女が、「(訴えが認められたと)早く皆さんに報告できたら」と空を仰ぎ、声を震わせて仰った場面は、私の心に深く刻まれた。きっと、今回の上映会に参加された皆さんにも、印象深い場面があったと確信できる、真実の重みを記録した映画だった。

グリーンコープの食べもの運動の原点の一つとなった、カネミ油症事件について、その事実のみならず、事件に関係した方々の胸中や、その人生に学ぶ貴重な機会となった。

東地域本部 環境活動委員長 半田 恵美

カネミ油症事件とは…

昭和43年(1968年)10月に、西日本を中心に広域にわたって発生した、ライスオイル(米ぬか油)による食中毒事件です。

事件の原因は、カネミ倉庫社製のライスオイル(米ぬか油)中に、製造の際の脱臭工程の熱媒体として用いられた、鐘淵化学工業(現カネカ)社製カネクロールが混入していたことでした。このため、ポリ塩化ビフェニル(PCB)や、ダイオキシン類の一種であるポリ塩化ジベンゾフラン(PCDF)等が、製品のライスオイル(米ぬか油)の中に混入しました。

症状は、吹出物、色素沈着、目やになどの皮膚症状のほか、全身倦怠感、しびれ感、食欲不振など多様です。こうした症状が改善するには長い時間がかかり、現在も症状が続いている方々がいいます。(厚生労働省のホームページより)



## 東地域本部 2025年度 レッツゴー田んぼ in JAかみましき清和

10月18日(土) 稲刈り

たくさんの組合員の皆さんに参加していただき、今年度も無事に「レッツゴー田んぼ」の取り組みを終えることができました。温暖化の影響で、稲刈りが1週間遅れましたが、お米の出来は上々で、新米はとてもおいしかったです。生産者の皆さん、1年間本当にありがとうございました。



6月7日(土) 田植え



7月7日(月) 草取り



11月10日(月) お米引き渡し式



環境委員会メンバーで、12月12日(金)、リユースびん再生事業を担う

## 株式会社 田中商店の見学に行ってきました



(株)田中商店では、4Rに加えリメイクとリペアを加えた6Rの取り組みが徹底されており、資源循環への熱意を強く感じました。当日はグリーンコープの900mlびんの洗浄を実際に見学。化学薬品や合成洗剤を使わずお湯で丁寧に洗い、ラベルを剥がし、びんの口まで1本1本点検する姿勢に感動しました。



リユースびんの半分はキャップ付きで入ってきますが、無理に外す必要はないそうです。傷や欠けがあると不良品になってしまうため、外せそうな場合だけ丁寧に外してください。ドレッシングびんや鮭フレックびんなど油脂が残りやすいものは、洗浄不良になるとリサイクルに回されることがあります。洗浄不良のびんは全体の約13%にもなるそうです。改めて、きれいに洗浄して返却していただくことを訴える必要性を感じました。



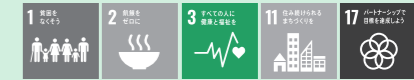
この日、強く印象に残っているのは「少し面倒な暮らしを受け入れる世の中にしていかなければ、びんがなくなる」という言葉です。これまでも4Rの大切さは伝えてきたつもりでしたが「なぜ4Rを行うのか、普及させるためには何が必要か、できなかった場合どんな未来につながっていくのか」改めて自問しました。当たり前に使って、便利なものに頼りすぎる私たちの生活は、未来の資源を減らし汚してしまうことにつながります。

《組合員一人ひとりがルールを守り、きれいに洗って返すことが大切です》

「Rマークの確認」「汚れを残さず返却」「キャップは無理に外さず丁寧に扱うこと」

これからもご協力よろしくお願いいたします。私たち一人ひとりの一歩で、未来の資源を守る大きな力にしていきたいです。  
委員長 鍋島 貴和子

# 2025年度 災害支援活動のまとめ



近年、多くの災害が私たちの生活を脅かし続けています。2025年8月には、8日から11日にかけて発生した線状降水帯により、主に西地域本部エリアで大規模な浸水被害が発生しました。1日も早く安心な生活が戻るようにと、行政などと連携し、泥かきやリサイクル衣料バザーを行うなど「被災地に寄り添う」という視点で、グリーンコープだからできる支援を行いました。

災害に対して組合員の皆さんから寄せられたカンパ金をもとに、復興に向けてさまざまな支援活動を行ってきました。これまでに組合員から届けられたカンパ金は、熊本地震の支援に361,742,626円、令和2年7月豪雨の支援に191,837,322円（2025年12月20日現在）にも上ります。皆さんからの思いを被災地に届ける活動を、今後も続けていきます。

## 熊本地震

2016年4月14日と16日に発生した熊本地震の直後から、グリーンコープでは被災された方々への支援物資の提供や炊き出しなど、さまざまな支援活動を行ってきました。4月29日からは、グランメッセ熊本での炊き出し、5月になると宇城市からの依頼を受け、豊野公民館やウイング松橋の避難所への、グリーンコープの食材を使った「具だくさんの味噌汁」のお届けなどを行い、多くの方から感謝の言葉をいただきました。

その後も、熊本地震災害支援センターを中心に、買い物支援などを日常的に行い、「南阿蘇村との移動販売並びに見守り活動に関する協定締結（24年6月17日）」や、「益城町・益城町社会福祉協議会との買い物支援及び見守り活動に関する協定締結（24年11月11日）」などにより、今では地域住民にとってなくてはならない存在になっています。下記は2025年度に於けるさまざまな取り組みの様子です。

### 「みなみあそボランティアまつり」11月2日(日) 参加



熊本地震災害支援センターとして餅つきとから揚げの販売、元気カーの紹介・販売、東部センターからはグリーンコープの紹介コーナーを設けました。来場者は150人程。

餅つきは、小さい子どもから村長さんまで参加していただきました。餅を丸める作業とパック詰めは、地域の婦人会の皆さんに行っていただきました。から揚げも好評で、イベント終了前に完売となりました。元気カーには19人の方が買い物にいられました。

### 益城町飯野公民館「つながるカフェ」12月6日(土) 開催



恒例の門松作りを行いました。組合員2人、熊本地震災害支援センター4人で取り組み、今回の参加者は16人でした。



門松作りは、皆さん慣れてこられたのでスムーズにできました。

食事は炊き込みご飯と豚汁、果物を用意しました。皆さん「たくさん作るとおいしい」と言われ、ほとんどの方がおかわりされていました。

### 白藤団地の餅つき大会 12月14日(日) 開催



熊本市西区の白藤団地で開催しました。ここは災害公営住宅が併設されている団地です。組合員2人、熊本地震災害支援センター4人で行いました。

自治会長さんが「去年は餅が少し足りなかった。今年は少し多めにお願いしたい」と言われたため、餅米は昨年より5kg多い25kgにしました。子どもたちもたくさん来て、餅をついてもらいました。餅ちぎりと丸めは団地の女性の皆さんが大勢来て、楽しそうにされていました。餅の他に豚汁とぜんざいを準備し、こちらも好評でした。

## 令和2年7月豪雨

2020年7月の豪雨被害から、少しずつ復興への歩みを進めてきています。その様子については、本紙でも丁寧にお知らせしてきました。6年目を迎えた現在は主に、ワーカーズコレクティブ ヒトハレが「元気カー」により、見守りを兼ねた買い物支援を行っています。

2025年には、球磨村からの要請に応え配達エリアを増やすなど、地域に密着した活動を行っています。9月には「5年後集会」を人吉市の中川原公園で開催。来場者の中には「あの時はグリーンコープさんにお世話になった」と言われる方も多く、発災直後から現在に至るまで、グリーンコープが地道に続けている災害支援が地域に認められていることを改めて感じる場面となりました。

### 「子どもの居場所 ひだまり」で餅つき 12月26日(金) 開催

グリーンコープ生協くまもと、ふくしサービスセンター、ヒトハレ、ボランティア、就労準備支援からと、たくさんメンバーで取り組みました。キープ&ショップ再建後から餅つきには必ず参加される被災された組合員の方も、とても楽しみにされていた様子でした。



今回、15kgの餅米をつきました。早めに来ていた子どもたちがあんこを丸めてくれ、大きさはまちまちでしたが「1袋で30個作ってね」とお願いしていたので、しっかり数を数えて個数を合わせてくれました。雪がちらつき風が強かったのですが、子どもたちも頑張ってくれました。つきたてのあんこ餅は子どもたちに好評で、たくさん食べてくれました。50食分準備した昼食の「つぼん汁」も好評で、おかわりをたくさんしていました。今年は、町内での餅つきがなかったようで、近所の方にも喜んでいただいていた良かったです。

## 能登半島地震・豪雨

2024年1月1日に発生した能登半島地震。9月には豪雨も発生し、被災の状況はますます大きなものとなりました。発災直後からグリーンコープは、被災地に寄り添った支援を続けており、現地スタッフの派遣や各生協からの支援の取り組みなどを行っています。その中で、現地で頑張っておられるメーカーとの出会いもありました。カタログでは能登半島地震復興応援商品の企画を行い、店舗でも現地を応援する商品のコーナーを設けて、支援の呼びかけを行っています。

### 現地を訪問しての支援 8月1日(金)～5日(火)

グリーンコープ生協くまもとから、熊本地震災害支援センターメンバーに加えて、ワーカーズ、職員など総勢5人でチームを作り、現地へ出向きました。

これまでは炊き出しを行っていましたが、今回は輪島市の横地町第一仮設住宅と大野町第一仮設住宅でサロンを開催。参加者の皆さんと、たこ焼きと梅が枝餅作りを行いました。現地の方との交流や参加者同士の交流もでき、とても喜んでいただきました。



## 2025年度 遺伝子組み換え作物反対署名の取り組み報告

### 皆さんからいただいた大切な署名を、行政にお届けしました！

グリーンコープ生協くまとは、遺伝子組み換え作物反対運動の一環として署名活動に取り組んでいます。2025年度は熊本県に届ける署名の目標筆数を15,000筆とし、要望書（署名用紙）をくまもとのすべての組合員に、10市4町宛ての要望書（署名用紙）を、それぞれの自治体に住んでいる組合員に配布し、回収しました。各地区や地域委員会主催のグリーンズカフェ（秋の組合員のつどい）などの取り組みの参加者や、グリーンコープのお店やキープ&ショップの来店者にも署名の協力を呼びかけ、9月13日には熊本市中央区下通にて街頭署名を行いました。11月に、組合員の代表がそれぞれの行政に出向いて集まった署名をお届けすると共に、私たちの声を直接伝えました。



平成さくら通り店

9月15日～19日に要望書（署名用紙）を配布。9月22日～10月17日の4週回収。  
 熊本県18,366筆、熊本市7,165筆、荒尾市652筆、玉名市1,061筆、和水町183筆、南関町101筆、菊池市598筆、山鹿市826筆、天草市474筆、上天草市102筆、苓北町87筆、水俣市344筆、八代市1,731筆、人吉市262筆、嘉島町79筆をお届け。  
 菊陽町、大津町、合志市、益城町へは、東地域本部の組合員の代表が行政訪問を実施。

### 要望した内容と、熊本県からの回答について

**遺伝子組み換えナタネの定期的な監視、調査、飛散防止のために指導を行ってください。また、ゲノム編集技術は海にも広がりを見せています。同様に監視、調査、流出防止のために指導を行ってください。**

**回答**「遺伝子組み換えナタネおよびゲノム編集技術の定期的な監視、調査、飛散防止については、国全体の統一的なルールに基づき対応することが重要であると考えています。国においては、平成15年度（2003年度）以降継続して影響監視調査が行われています。その結果、遺伝子組み換えナタネは発見されていますが、現時点では、交雑などの生物多様性への影響は確認されていません。県では、今年度の国に対する要望の中で、遺伝子組み換え農作物の定期的な監視・調査の継続と消費者への情報提供をお願いしているところです。令和7年3月の皆様の調査活動では、八代市において遺伝子組み換えナタネが確認されたとのことであり、平成27年度（2015年度）から参加させていただいている皆様の調査活動に、引き続き、県も参加させていただきたいと考えております。また、ゲノム編集技術を用いて品種改良されたマダイ、トラフグおよびヒラメについては、県外で陸上養殖されていると聞いており、今後の動きを注視しているところです。県としましては、引き続き情報収集に努め、県民の皆様の声に耳を傾け、必要な事柄については、国に対し要望等を行っていきたくと考えています。」

**私たちの身体は食べたもので、できています。未来ある子どもたちの健やかな成長のために、オーガニック給食に取り組んでください。**

**回答**「文部科学省は、学校給食における有機農産物等の活用は、環境負荷低減や持続可能な食料生産の促進等に対する子どもたちの理解を深める観点からも有効である等、教育的意義を有するとしています。このことについては、研修会等で周知しています。本県の学校給食においても、地域の有機農産物を含めた地場産物活用を推進することは、新鮮な食材供給に加え、子どもたちの郷土理解・郷土愛の育成、地場産業の振興にもつながると考えています。一方、有機農産物の学校給食への活用は、安定的な供給や、通常の農産物に比べコスト高になる等の課題もあるため、活用が広がっていない状況があります。有機農産物の確保や価格面での課題はありますが、有機農産物を味わい興味関心を高める機会とすることを目的に、今年度からの2年間で、学校給食を実施するすべての県立学校で有機米を提供する計画をしております。併せて、有機農産物を含む地場産物が給食へ活用されるよう、学校給食で有機農産物を含む地場産物を活用した好事例の紹介や情報交換等を行っております。また、昨年8月に熊本県学校給食会、県農林水産部、県教育委員会の三者で『学校給食における県産食材の活用推進に係る連携協定』を締結し、『熊本県産トマトパン』『熊本県産トマトゼリー』を開発しました。今後もその取り組みの中でも、有機農産物を含む地場産物の活用に取り組んでいくことにしております。引き続き、市町村および市内関係部局との連携を図りながら、有機農産物を活用した学校給食の充実を図って参ります。」

## わたしとグリーンコープ



福祉活動組合員基金  
基金運用委員会  
委員長  
小柳 裕子

### 「お世話になった グリーンコープ」

私が初めてグリーンコープに出会ったのは、まだ大宰府に住んでいる頃でした。家から1分位の所にグリーンコープの店舗がありました。その頃は、月のうち3週間位出張でお弁当ばかり食べていました。「こんな食生活をしていたら病気になるなあ」と漠然と思っていました。なので、自宅では、手作り・安全・おいしいをモットーに、生協の方にいろいろ教えていただいたりして食事を作っていました。

熊本に帰り、一番にグリーンコープに入りました。昨年からは、基金の委員長と理事をさせていただいて、いろいろなことに参加させていただき、とても勉強になっていきます。「これからも、いろいろな学んでいきたいなあ」と思っています。

## こんにちは！ワーカーズです

### ワーカーズ・コレクティブ 聞文 (bunbun)



伊藤 春美

メンバーになったのは6年前。広報室が、ワーカーズとして発足して早3年が経とうとしています。くまもとのワーカーズの中で一番人数の少ないワーカーズです。主な仕事は機関紙「グリーンたいむ」の作成と、ホームページの更新ですが、機関紙の作成に於いては、紙面作成用のソフトを使うため、難しくもあり楽しくもあります。長い人生の中では、貴重な経験と思って、毎日楽しく過ごしています。

グリーンコープで活動をはじめて今年で40年。少しでも安心・安全な商品や青果が欲しいと、いろいろな商品開発などにも関わりましたが、広報室は組合員の皆さんへ如何にグリーンコープの素晴らしさを伝えるかということが一番の課題です。もう少しの間頑張りたいと思っています。

## 2027カーボンニュートラル どんどん広がる取り組みの「輪」



豊かな自然に囲まれた天草をそのまま次の世代へ引き継いでいくため、日々、組合員の皆さんにご尽力いただいています。

昨年、稼働を始めたグリーンコープミルク工場を見学した際、近々太陽光パネルが設置され再生エネルギーを使用した製造を開始するというお話を聞きました。

また、商品の配達はまだ使用していたドライアイス削減し、カタログや仕分け袋の回収を通してリサイクル活動も行っています。更に、天草センターは2026年度にトラック4台と軽バン1台をEV車へ変更する予定となっています。

皆さんにグリーンコープ商品を利用していただくだけで、製造からお届け・回収まで、このカーボンニュートラル運動の大きな取り組みのサイクルを形成しています。

引き続きご協力をお願いいたします。

西地域本部 天草センター長 松尾 昂祈





# 「グリーンコープでんき」2025年度のまとめ



グリーンコープが目指す「脱原発運動」の象徴として原発のない社会、安心して暮らせる社会の実現を目指し、2025年度の年間66件を目標とし「グリーンコープでんき」の利用拡大に取り組みました。1月23日現在の数値にはなりません、新規での契約は10件に留まっています。その結果、2016年度からの累計契約数は833件です（組合員参加率0.81%）。目標としている組合員参加率1%には到達することができていません。いのちを大切に作るグリーンコープだから実現できた「原発フリー」「二酸化炭素排出ゼロ」のでんきです。まだまだ「グリーンコープでんき」の良さをきちんとお伝えする（推進する）ことができていません。

2025年度から「お昼 de オール電化プラン」が新登場し、家庭用向けの電気プラン全て（ファミリープラン・オフィスプラン・お昼 de オール電化プラン・低圧プラン）が、「二酸化炭素排出ゼロ」のでんき。環境にも優しいでんきとなりました。

原発は反対だと思われる方、地球温暖化についてどうにかしたい（何か対策ができないか考えている）と思われる方は多くいると思います。既に行動されている方にも、グリーンコープの組合員だから契約できる「グリーンコープでんき」を広げていきます。

グリーンコープでんき担当常務 高田 幸

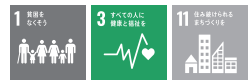
グリーンコープ生協  
くまもとの状況（2月）

グリーン電力出資金 2月16日現在 132,066,000円  
「グリーンコープでんき」申込状況 2月16日現在 834件



お気軽に  
お電話ください♡  
待ってまーす！

## もしもし♪ 電話コーナー



お金の問題、相談できます。  
**生活再生相談室**  
月～金/8時30分～17時30分(上天草は17時15分)  
第1・3土/9時～12時  
熊本相談室  
☎096-243-2100  
八代相談室  
☎0965-45-5133  
上天草相談室(土曜日は休み)  
☎0969-24-8330

生活まるごと  
なんでも相談できます。  
**ふくし情報でんわ**  
ごようほ ふくし  
フリーダイヤル ☎0120-540-294  
携帯電話からは  
☎096-337-7226  
月～金/10時～16時  
※祝日は休み

24時間受付・年中無休  
**グリーンコープ  
葬祭サービス**  
フリーダイヤル ☎0120-222-782  
「自然庵」との協働事業です。葬儀だけでなく、相続問題やお墓、供養、法事についての相談なども受け付けています。

昼や夜の張り替え、引っ越しなど、お気軽にお問い合わせください。  
**生活情報誌  
くらしアップ  
くまもと** ホームページ▲  
フリーダイヤル ☎0120-518-141  
月～金/9時～17時30分  
窓口：グリーンコープレインボー

ではダメかな... (磯川)

編集者だよ  
我々も5月の総会を目前にして、1年間を改めて省みています。当紙でいうと、ご寄稿いただいたくない月はないことが高評価だと思ふ。公式ホームページの活用でいえば、200件以上の情報を発信できていた。やるじゃん私たち♡と、ちよつとぐらいの自画自賛はお許しください。次年度う今日この頃である。次年度の方針も「頑張るつもり!!」

毎年3月といえは、年度を振り返り、総括する時期である。

**グリーンコープ生協くまもと  
リユース・リサイクル状況(1月分)**

牛乳びん 回収率※ 99.0%	カタログ 回収率 54.6%
リユースびん 回収率 112.5%	リサイクルトレー 回収率 80.6%
仕分け袋 回収率※ 25.25%	モールドパック 回収率※ 176.0%

※グリーンコープ全体の回収率

発行 グリーンコープ生活協同組合くまもと

発行責任/理事会  
編集/広報室  
発行所/〒860-0056  
熊本市西区新土河原2丁目1-1  
☎ 096-324-8118(代)  
FAX 096-324-8123  
印刷所/ホープ印刷株

■東地域本部 25,631人  
■西地域本部 37,302人  
合計 62,933人  
(2月24日現在店舗組合員を含む)

グリーンコープ生協くまもとのホームページ (<https://greencoop-kumamoto.jp/>) に最新情報更新中！  
ぜひアクセスしてください。携帯電話は、こちらの二次元コードよりアクセスできます。➡

